

平成29年度 第72回国民体育大会関東ブロック大会派遣報告書

審判員名	管 祐介	所属	ミニバスケットボール連盟
大会名	平成29年度 第72回国民体育大会関東ブロック大会派遣報告書		
期 間	平成29年 8月18日(金) ~ 8月20日(日) ※8月18日(金)は審判会議および審判ミーティング		
会 場	高崎アリーナ		

スケジュール

期日	内容	場所
8月18日(金)	16:30 審判受付	高崎ワシントンホテルプラザ
	18:00 審判会議	高崎アリーナ B1審判控室
	18:15 審判ミーティング	高崎アリーナ B1審判控室
8月19日(土)	10:00 競技開始	高崎アリーナ
	15:00 競技終了	高崎アリーナ
	15:30 A級研修会	高崎アリーナ
8月20日(日)	9:30 競技開始	高崎アリーナ
	16:00 競技終了 最終試合ミーティング終了後 大会最終ミーティング	高崎アリーナ

ミーティング内容と所感

〇「JBA プレイコーリング・ガイドラインについて、2POメカニクスについて」

(公財)日本バスケットボール協会 審判講師 安西 郷史 氏

初日の審判会議の後に、先日配付があったガイドラインについての説明と2POについての話があった。ガイドラインがなぜ出されたのかという目的の話から、その項目に関して一つずつの説明があった。また、2POのメカニクスについて、現状の課題を踏まえながらのレクチャーも同時に行われた。ガイドラインが出た背景として、日本全国どの審判と担当してもある程度同じ判定基準でゲームを運営できるようにしていく、ということを知った。また、クリーンな試合を提供する(Clean the game)ために、良い判定を積み重ねてゲームコントロールしていくことが重要であることが分かった。判定の根拠をいつでも明らかにしておくことも大切で、説明できる判定を続けることが大切であると実感した。レクチャーの中で「2POではメカニクスも大事であるが、プレイを判定できる、確認できる位置取りのほうがより大切であること」が一番印象に残った。本来より良い判定をするためにつくられたメカニクスであるが、その現象に応じて臨機応変に対応することが2POでも必要となることが再確認できた。

〇「3POメカニクスについて」

(公財)日本バスケットボール協会 審判講師 小澤 勤 氏

大会1日目の競技終了後に、翌日の3POのメカニクスを確認する意味も踏まえてレクチャーがあった。3POのメカニクスについて、ベーシックの確認をしながら、ケースによっての位置取り等の話をしていただいた。最後には、小澤氏が担当した昨シーズンのBリーグの映像を用いて、コミュニケーションの必要性と映像から学ぶことの話があった。3POのメカニクスの話の中で、最近の自分の課題であるリードの動きについてヒントになるものがあった。また、センターがアクティブになることが必要であることも再確認できた。3POの中で、2POとの違いはコミュニケーションの量が1.5倍になることであるという話があった。普段から気を付けていることをいかにクルーで共有して、オンザコートで発揮できるか、準備をどれくらいするかの大切さを痛感した。また、1つのプレイで試合の結果が変わることの怖さを感じ、これから担当する一つ一つの試合に良い準備をして臨めるようにしていかなければいけないと強く感じるようになった。

〇「3POの学び方」

指名審判員 漆間 大吾 氏

小澤氏の話の後、bjリーグ等の経験からどのようにして、3POを学んできたか、そして今どのように学んでいるかの話をしていただいた。漆間氏が実際にbjリーグの試合を担当するまでに、3POで吹いた試合が数試合であったことに一番驚いた。その経験の少なさを埋めるために、試合を観ることで学びを深めたことを知った。空いている時間を作り、国内のゲームだけでなく、NBAやNCAA、ユーロリーグやFIBAの国際試合などを観て、自分で経験できない部分を補いながら学んだことが分かった。また、現在も自分の担当した試合はもちろん、次の対戦カードの試合等もみて、自己のスキルアップを行っているという話があった。自分自身も経験不足の面を補うために、映像を上手に活用していきたいと考えるようになった。

実技			
担当ゲーム①	期日	平成29年8月19日(土)	少年女子
	対戦カード	埼玉県 対 神奈川県	
	相手審判	増渕 泰久(指名)	
1回戦 副審			

○プレゲームカンファレンス

①2人の協力について

- ・視野の分担(トレイルとリードのスペースの捉え方)
- ・ラストタッチの見極め(確信がもてない時お互いにアイコンタクトをとる)
- ・相手の立っている位置に応じて、自分が動く位置を変える。(ボクシング・イン)

②ガイドラインを意識した判定

- ・ハンドチェックについては試合のできるだけ早い段階で整理する。
- ・明らかなトラベリングを見過ごさないようにする。

○ミーティング 茂泉 圭治 氏 (神奈川県)

- ・良い位置どり、良いアングルを捉えられているときは、良い判定に繋がっている。
- ・プレゼンテーションは分かりやすく、落ち着いていて良かった。
- ・スペースを捉えるために、動きを工夫したほうが良い。

①トレイルの場合:クロスステップやペネトレイトをして、スペースを捉える必要がある。

②リードの場合:クローズダウンポジションで止まっている時間が長いので、状況に応じて外に広がったり、角度をつけたりといったポジションアジャストが必要である。

- ・プレイを予測して、早く状況を捉えることが求められる。(ルーズボールやリバウンド争い等)

担当ゲーム②	期日	平成29年8月20日(日)	成年男子	準決勝
	対戦カード	埼玉県 対 群馬県		U2
	相手審判	R 大河原 則人(東京)	U1 中島 弘幸(千葉)	

○プレゲームカンファレンス

①映像を活用したケースの確認

- ・FOMやプロテクトシューター、イリーガルスクリーンのクリップを見て、共通認識でプレイを捉える。
- ・ローテーションのタイミング、視野の分担を

②3POの良さを生かした判定

- ・ボールサイドツリーになるように、リードが積極的にスイッチサイドを行う。
- ・プライマリエリアで起こった現象に積極的に判定する。

○ミーティング 増渕 泰久 氏 (指名)

- ・メカニクスの部分では、3人で協力してうまく連携できていた。
- ・リードのポジションアジャストをもっと行ったほうが良い。(ドライブやリバウンドに対して)
- ・オフボールについても笛を入れられていて、比較的にクリーンにゲームが進んだ。
- ・ポストプレイの見方を工夫したほうが良い。アングルを意識する。
- ・2人でA級同士で吹くことも意識して、選手やベンチとのコミュニケーションの仕方を工夫したほうが良い。

全体の感想

今回、初めて国民体育大会関東ブロック予選(ミニ国体)に派遣させて頂きました。A級研修も兼ねており、日本協会の講師の方からのレクチャーや試合後の講評を聞くことができ大変貴重な経験をさせて頂きました。また、今大会は関東からの国民体育大会本戦に出場 できる1 チームを決めるという、各都道府県にとって大きな大会であり、レベルの高いプレーや試合が初戦から多く、初日・2日目の割り当て共に激しいプレーや質の高いプレーが随所に見られました。その中で、2試合を担当し、A級審判としてもっと判定力を向上しなければならないと痛感いたしました。

また3日間を通じて、これからA級審判として求められることやA級としての責任をより認識し、オンザコートでの判定力だけでなく、一審判員としての意識をより高めていかなければならないと認識いたしました。今大会の中で多くのA級およびS級審判員の方と話し、試合を一緒に見ることができたことは非常に良い刺激となりました。この経験を活かし、自己のスキルアップはもちろん、同じ所属の審判員に伝えていければと思います。

最後に、開催県としてお世話になりました群馬県の菊池真吾審判部長をはじめ、群馬県の審判員の皆様へ感謝申し上げます。また、ご指導いただきましたJBA講師の安西郷史様、小澤勤様、関東協会の渡邊整審判長をはじめ今大会に派遣された関東ブロックの審判員の皆様、そして派遣をしていただきました東京都協会の皆様へ重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。